

岩淵辰雄 （はつせき） 政治評論家。明治二十五年一月十日宮城県登米郡米山生れ、昭和五十年六月八日歿（二八九一―一九七五）。筆名妙法寺二郎、堀内達。早稻田大學中退後、『讀賣新聞』、『國民新聞』等の政治記者とあり、雑誌『中央公論』、『改造』等の政界内幕物や評論執筆。終戦直前、憲兵隊に検挙せられた。二十一年貴族院議員、二十七年國鐵理事。四十年勲一等瑞寶章受章。

著書に『厩屋政談』（昭和十五年八月、千日高山書院）、『重臣論』（昭和十六年一月十八日高山書院）、『現代日本政治論』（昭和十六年六月、二十一日東洋經濟新報社）、『對支外交史論』（昭和二十一年七月一日高山書院）、『敗るゝ白まご』（昭和二十一年十一月九日日本週報社）、『軍閥の系譜』（昭和二十二年七月十五日中央公論社）、『岩淵辰雄選集』全二卷（昭和四十一年十月一日―四十二年五月一日青友社）等。『岩淵辰雄追想録』（岩淵辰雄追想録刊行会編、昭和五十二年十月二十日廣曲元信刊）がある。



岩淵辰雄追想録

現代日本政治論

岩淵辰雄著